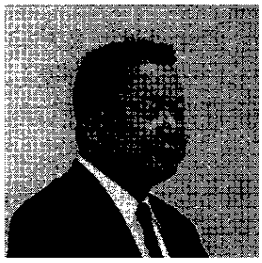
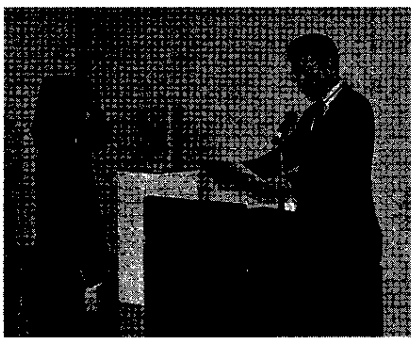
主催者あいさつ（池村幸久代表）



今日、特選以上を受賞された皆さんは、今回の書道コンクールのウイナーズです。おめでとうございます。でも、今後の人生には山あり、谷あり苦難の時もあるかも知れません。そんな時、今回作成した参加賞の栞（しおり）にある士清先生の「何故にくだきしものと人問わばそれとこたえんやまとたましい」の歌を思い出していただき、皆さんそれぞれの夢の実現に向けて、士清先生の刻苦勉励された姿と今日の喜びを思い出していただき、郷土津、日本、世界のために頑張ってください。また来年も応募してくださいね。最後になりましたが、前葉市長ご臨席ありがとうございました。

前葉泰幸市長あいさつ（要旨）



市長賞授与

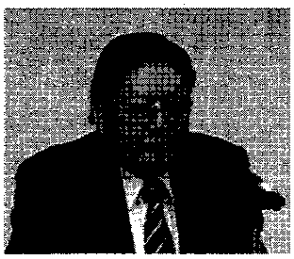
736 点の中から選ばれた皆さんおめでとうございます。
学校や塾で習って、「谷川士清」（中学生）、「ことすが」「たまむし」など書いて下さったと思いますが、これからも士清先生のように津市をもっと好きになってください。

御父兄へひとこと。お子様のご応募・ご入賞おめでとうございます。
今 28 年度の予算を作っていますが、今後小中学校の教室にエアコンを設置したり、子どもさんの医療費を通院（現在は入院のみ）も含めて無料化したりしていきたいと考えています。

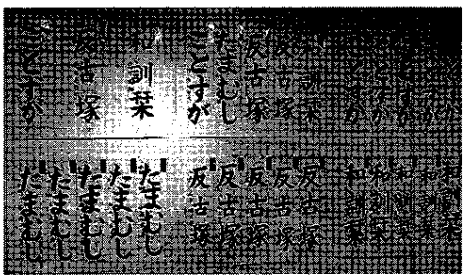
最後に、士清の会のご発展と皆様のご健勝をお祈りしてあいさつといたします。

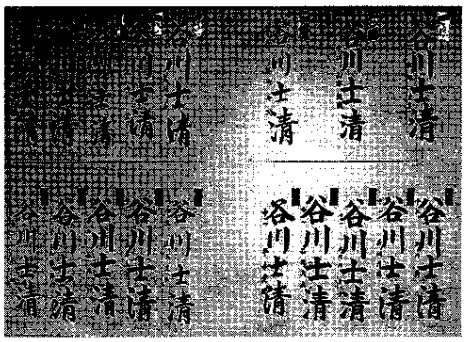
// **祝電** // 川崎二郎衆議院議員、前田剛志県議会議員、杉本熊野県議会議員

審査委員稲垣無得先生による講評



全部で小学校 24 校（434 点）、中学校 13 校（302 点）総計 736 点と昨年を上回る応募作品でしたが、丁寧に審査しました。私は毎日字を書いていますが、壁面に貼って自己添削しています。皆さんの作品も 3 段×12 枚ずつ掛けて全部みました。非常に時間がかかりましたが、はじめに粗読みし、その中で気魄が感じられたものを 1 学年 20 点～25 点に絞り、それを受賞点数 40 点に絞っていき、1･2 日置いて見直して各賞を決める。甲乙つけがたいのを、訴えかけてくるものがある作品を大賞以下上位にしました。順位はついていますが大差はありません。根本は①「練習量の多さ」（次第に細部よりもひらめきが見えてきます）と、②「自信を持つこと」です。
御父兄へのお願い。子育ての根本は、ほめることにあると思います。ほめると意欲がわいてきます。子は宝です。大事にしてあげてください。来年も頑張ってください。がんばらない者には結果は出ません。





勉強会の記録　「『和訓栞』に引用されている万葉歌について」（内容概略）

《第１回》**「かに、かねる、かねて、かば、かはす、かはづら、かはる、かへしうた、かほばな」**
「かに」で「哉」を万葉集に「かに」よんでいる　とあるが、「哉」はカ・カモ・ヤ系統でよんで、「かに」とよんだ例を見ない。「かはづら」で出しているが、万葉集では「かはへ」とよんでいる。

《第２回》**「かほばな、かほどり、かまかまし、かみさび、かみあげ、かま、かんしん、かんはふう、かんつみや、かもめ」**
「かまかまし」は、やかましい・かまびすしいで、神・雷とどのように関係があるのか。「かんしん」で出しているが、「むらぎもの」といっている。「かんしん」は「肝心」で、肝臓・心臓転じて心をいう。「むらぎもの心」という形で出したらどうか。「かんつみや」で提出しているが「かむみや」の見出しの方がよい。「かもめ」は万葉語としては「かまめ」とすべき。（「加万目」とある）

《第３回》**「かもてふふね、かよふ、かよりあふ、かよりかくより、から、からしほ、からあゐ、からころも」**
「かもてふふね」と「てふ」という形で提出しているが、「ちふ」＝「といふ」という形で当時はよんだのではなかろうか。以上、士清の見出し語について気付いたことを述べたが、あとは非常に適切に万葉語をとらえ、万葉集を読み込んでいる士清である。（片山武先生によるまとめ）（「まなびの栞第５号」参照）